

9 [] (əʔcʔeʔ)

角括弧 言い換え可能を示す。また、音声を表わす。また、見出しとして見やすくするためにも使う。辞書の [əV-] という表記のように。音は無いが、言い換えの場合、朗読では əʔcʔeʔ と読むこともある

10 () (əʔcʔ-eʔ)

丸括弧 補足事項を添える。補足は重要ではないため、しばしば省略可能である。そこから丸括弧内は省略可能であるということも表わす。したがって、丸括弧は補足事項と省略可能を表わす。音は無いが朗読では括弧内を読むのがふつう

11 ... (V-cʔ)

四点リーダー 沈黙や余韻を表わす。音は無い

12 — (-ʔcʔ-ə-)

線記号 一瞬の沈黙や瞬間的な驚きによる余韻を表わす。また図解するときの単なる見やすい線としても使われる

13 : (-|ʔ)

二境界点 左の語句や文などを右でより詳しく或いはより簡潔にまとめるための記号。音は無い。また、辞書などの記述では単純に記述を見やすくするための区切りとしても使われる

14 · (ʔeʔ)

境界点 境界を表わす。合成語の形態素を明確にするために使われる。また、頭字語を表わす。更に後述する音節構造など、省略された語同士を組み合わせるときの区切りにも使う

15 ˆ (ʔ-ʔ-ə-)

簡条書きの見出しとして

ˆ <əʔcʔe -ʔ- leʔ -ʔcʔ

上のように簡条書きの見出しとして使う。ˆの後にはスペースを入れる

強調の形容詞ʔ-の代用

V-ʔcʔ-ʔcʔ ˆ<ʔcʔe-ʔ

上の場合、1と違ってスペースは入れない

16 ˆ (heʔcʔ)

字や語の繰り返し記号。ʔeʔをʔe ˆと書くと「テオ」を「テーオ」と読むことになる。

また、一行目に文を書いて、二行目も同じである場合、同じ部分をゞで表わすことができる。日本語だと「'」記号を書いて同上とするが、あれと同じ

17 : ○\ / X (>e>, Jo-f, Jccf, Jo>c)

評価に使う。丸が良くてバツが悪い。4段階なので中間は存在せず、両悪どちらかに立たされる。曖昧で無責任な評価を許さない文化の表れ。

主に文中で出てくる表意記号はこのくらいでしょう。次は天秤部についてです。台詞を見ていると偶に括弧の前にこんなのが出てきます。

>ccμ:So ⑥|-|- f c f>c -Af ⑥

これを訳すとこうなります。

「アンタ何すんのよ！」とミールは怒って言った。

喋り括弧の前に来る部分を天秤部といいます。古アルカに天秤詞という品詞があり、それが品詞から外れたものです。当時 libra tone と呼ばれていたのを私が日本語に訳しました。当時は後置されていたのですが、ある日本人の知恵で前置に変えられました。

機能としては話者、思考者が誰であるのか、そしてその誰かがどのような様態で言ったり思ったりしたのかを表わします。行為者は:の左、様態は:の右に置かれます。

必ずしも両方出る訳ではありません。>ccμ ⑥ やSo ⑥ の形で出ることもあります。そのときはジョという人名ではないこと、或いはミールという様態でないことに注意してください。

まあ日本語で考えれば区別は難しくないでしょう。たとえば日本語だとこうなります。

鈴木：動揺「え、どうして君がここにいるの？」

このうち片方がなくなっても鈴木が様態だったり、動揺が名前という解釈をする人はいないでしょう。それと同じです。

天秤部の話者は、2人同時に同じ事を言った場合、\ccΛ|lecΛ ⑥ のように「|」で繋いで表わせます。また、様態は語だけでなくもっと詳しく節や句も取れます。

『ハウルの動く城』に主人公のソフィーが荒地の魔女と階段を四苦八苦して登るという、考えさせられるシーンがあります。ソフィーが「あんたそれでも魔女なのー!？」と掛け声をかけるシーンがありますが、それを訳すとこんな感じです。

Jo<c:>ol>c fcl Λ-< <ol e Λ-lf ⑥OecΛ, -fcer f c e' h-μclΛ Jecer ⑥